

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

「祭典」の後に読む本4選

いよいよ東京五輪が始まりました。この大会がどのような歴史的意味を持つことになるのか、今後様々な見地から検証がなされることでしょう。「祭」の後も、私たちの日常は続いていきます…

東京の子
藤井大洋 著
● KADOKAWA ● 2019年

都市は人なり
Sukurappu ando Birudo プロジェクト全記録
● Chim↑Pom 著 ● LIXIL出版 ● 2017年

東京オリンピックへの鎮魂歌
● 岡 邦行 著 ● ゆいぽと ● 2021年

東京「近未来」年表
山田順 著 ● さくら舎 ● 2018年

展示 PICK UP

■ 3F ブルーゾーン【アート・言語・文学】の本を集めたゾーン ~10月15日(金)

青の本棚

「青」は色彩としての意味だけでなく、「青春」や「青二才」など若さや未熟さを表す言葉にも使われます。また憂鬱な気分を「ブルー」という一方で、青い花や青い鳥のように希少さのため人々から憧れを抱かれてきた色でもあります。この展示では「青」から連想される言葉とともに関連図書を展示しています。



「青」にまつわる話や連想される言葉をパネルにして紹介しています。

海や空など自然の中の青色が美しい写真集も並んでいます。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

『風俗画報 臨時増刊第191号』(東陽堂発行 / 1899年)



▲全ページの周囲三方に細かい破れがあり、大きく破れているページもあった。



▲欠落部分を和紙で補修。ページを開きやすいように修復。

特別研究室企画展示

100年後も手に取れる本に

開催中~
9/30(木)まで

~内田嘉吉文庫修復報告2021~

- 休館日: 8月16日(月)、9月20日(月・祝)
- 会場: 4階特別研究室 ■ 入場無料
- 開室時間
 - 平日: 10:00~20:00
 - 土曜: 10:00~18:00
 - 日曜・祝日: 10:00~16:00
- 主な図書展示 ※会期中、展示替えがあります。
 - 『南洋視察復命書』(1914年)
 - 『Europe in China』(1895年)
 - 『Napoleon et son temps 1・2』(1896年)

8月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パーブルゾーン
「あの頃のオレたち」(~11/12) NEW!
戦後間もない1947(昭和22)年から1949(昭和24)年に生まれた「団塊の世代」。彼らの人生は日本の戦後史そのものであり、学生運動の盛んな時期に青春を迎え、バブル期には、猛烈社員として働き、デフレ不況の折にはリストラの危機にさらされました。そして2025年には高齢者医療の問題に直面するとも言われています。そんな「団塊の世代」の歩んできた道について振り返るとともに、今後の社会の課題について考えます。

2F パーブルゾーン 三角台
1階 特別展「紀伊国屋三谷家コレクション 浮世絵をうる・つくる・みる」関連展示「浮世絵をまなぶ」(~9/19) NEW!
1階 特別展の関連展示として、「浮世絵をまなぶ」と題し、歌川広重や歌川国芳などの「五大浮世絵師」はもちろんのこと、「浮世絵入門」「江戸の浮世絵師」「明治の浮世絵師」の4つのテーマを取り上げて展示いたします。魅力的な「浮世絵の世界」をどうぞお楽しみください。

3F エレベーターホール
「アートでSDGs 日比谷の森で考えるプラスチックと地球環境 ~いま、できることから~」(~8/31)
プラスチックはとても便利。けれど海に流れ出したプラごみは世界の海で大きな問題になっています。地域の仲間たちがつくったプラごみアート作品をきっかけに、「なにができるか」、プラスチックと地球の未来について考えます。環境アート、レイチェル・カーソン、「駿河台本」の世界にも誘います。

3F グリーンゾーン
「時を重ねる」(~9/17)
“若さ”も“新品の輝き”も素晴らしいものですが、“古い”も“古い”も、時が刻まれ経験を重ね、味わいが出てきた様子に惹きつけられることもあります。長い時間を過ごしてきた人や物から困難なこの時期を過ごす中で、少しでも豊かな時間を作る為のきっかけを得てもらおう展示です。

教えて! 図書館用語 (増補版)

本誌『ポモ〜ヌ』2018年3月号まで続いた「教えて! 図書館用語」のコーナー。欄外でひっそりと続けられていた幻のコーナーです。今回は「よくあるご質問」にお答えする新作です。 ※掲載は不定期です。



館内検索機で本を検索したときなどに目にする用語。「開架(かいか)」の対語。本が利用者の手の届く書架に並べられている状態を「開架」というのに対し、書庫内に保管されている状態を指す。「閉架」の本を読むためには、図書館員が請求に応じて持ち出し、利用者に渡すという手順が必要となる。当館では、建物の中心部に閉架書庫があり、4層から7層までを図書館資料の保存に使用している。

参考: 『最新 図書館用語大辞典』 図書館用語辞典編集委員会 編 / 柏書房 / 2004年

2020年度、日比谷図書文化館特別研究室は内田嘉吉文庫を中心に20点の所蔵資料の修復を行いました。18世紀、19世紀の洋書や戦前期の雑誌、一枚絵(双六)、冊子など様々な種類の資料が安心して手に取れるよう修復されました。その修復過程の記録を公開し、修復された資料を展示します。今回の修復本の中の『風俗画報 臨時増刊第175・177・189・191号』は合本されたもので、ハードカバーの丸背が硬く、閲覧が難しかったため、各号ごとに分ける修復を行ったことでページが開きやすくなりました。今後このように単に傷んだ箇所を修理するだけでなく、実用性を高める修復を行っていきます。貴重な古書を手にとってご覧いただける特別研究室をぜひご利用ください。

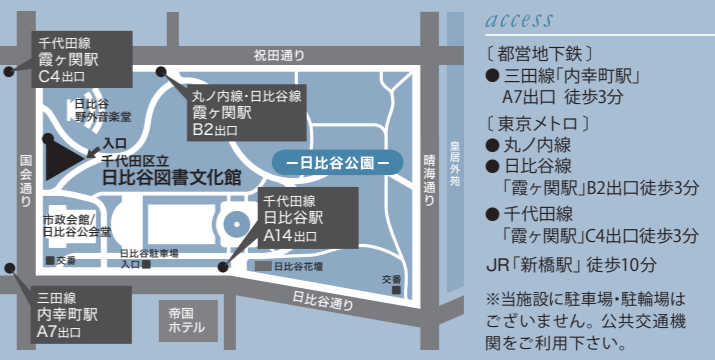


▲合本を各号ごとに分けた『風俗画報 臨時増刊第175・177・189・191号』(東陽堂発行 / 1898~1899年) 新しくケースを制作した『植民地大鑑』(深尾幸太郎 著 / 1917年)

calendar 開館時間: 平日10時~22時 ■ 土曜10時~19時 ■ 日祝10時~17時 ■ 休館日

2021年 8月							2021年 9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30		

緊急事態宣言が解除されるまで、平日の開館時間は10時~20時までとなります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。



8・9月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

8/6 (金) 星のソムリエが語る ～お家で楽しむ星空観測～

講師：皆川 敏春(星のソムリエ®みたく)、北崎 直子(星のソムリエ®みたく)

COVID-19により人々の生活は大きく変わってしまいましたが、星空は平静を保ったまま私たちを見守ってくれています。そうした星空の態度に、どれだけ多くの人々が時代を超えて癒されたことでしょう。そんな究極の心の癒しも、庭先から、ネット上で様々な楽しみ方ができるようになりました。いつまで続くかわからないこの状況を、少しでも忘れさせてくれるような星の世界をご紹介します。



撮影：皆川 敏春氏

- 日時：8月6日(金) 14:00～16:00(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円

8/26 (木) 近代国家の礎となった伊能図 —明治期の伊能図の利用—

講師：菱山 剛秀(伊能忠敬研究会代表理事)

江戸時代に伊能忠敬等によって作られた「大日本沿海輿地全図」は、一般に「伊能図」と呼ばれ、文政4年(1821年)に完成し、幕府に上呈されました。今年伊能図完成から200年目の節目に当たりますので、伊能図がどのように使われたかを振り返り、伊能図が作成された意義を再確認します。



第三軍管図 『陸地測量部沿革誌』【復刻版】(不二出版、2013)附図より

- 日時：8月26日(木) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円

8/28 (土) 草間彌生の世界 —オブセッションと救済—

講師：建畠 哲(多摩美術大学学長、草間彌生美術館館長)

アウトサイダー的な資質をもつアーティストでありながらも、ミニマルアートやポップアートをはじめとする国際的なアートシーンを先駆的に領導してきた存在と目されている草間彌生。1960年代のネットペインティングと近作に焦点を当てつつ、小説にまで及ぶ、彼女の旺盛な活動の軌跡を辿る。



- 日時：8月28日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

9/2 (木)他 文豪たちの素顔 —明治の名作はいかに生み出されたのか?(全2回)

講師：堀 啓子(東海大学教授)

名作を生み出した明治の文豪たちは、実生活もまた多くのエピソードにあふれています。彼らが、なぜ、どんなタイミングで「あの名作」を生み出したのでしょうか。互いの存在を認め合いつつ、共に明治の女流文人として時代を率いてきた樋口一葉と田辺花圃。文学上の主義は異なれど、互いに認め同等に渡り合った田山花袋と森鷗外。それぞれの生きた背景から名作が生まれた背景を探ります。

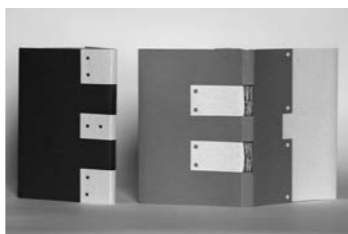


- 日時：第1回 9月2日(木) 14:00～15:30(13:30開場) 樋口一葉と田辺花圃 —明治女流文学の誕生
- 第2回 10月7日(木) 14:00～15:30(13:30開場) 田山花袋と森鷗外 —自然主義ブームをめぐる
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回100名 ■ 参加費：各回1000円

9/11 (土) 特別研究室企画展示関連ワークショップ 「交差式製本」でノートをつくる

講師：藤井 敬子(版画・造本作家)

内田嘉吉文庫の修復に携わる藤井敬子氏をお招きし、同氏が冊子の修復に用いた「交差式製本」の技法を学び、ソフトカバーのノートをつくるワークショップを開催します。「交差式製本」は1990年代イタリアの製本・修復家カルメンチョ・アレギ氏により考案された比較的新しい製本方法です。2枚の紙を交差するように組み合わせることで独特な表情が生まれる「交差式製本」は開きやすく、実用的です。今回の講座ではさまざまな用途に使えるノートをつくります。



交差式製本(藤井敬子氏提供)

- 日時：9月11日(土) 14:00～17:00(13:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール) ■ 定員：20名 ※中学生以上の方に参加いただけます ■ 参加費：2000円(材料費込み)
- 持ち物：筆記用具(鉛筆またはシャープペンシル)

9/11 (土) 千代田区民講座 小中学校でタブレット端末をどう活用すべきか？

講師：田中 博之(早稲田大学教職大学院教授)

今年から小中学校の子どもたちに一人一台ずつのタブレット端末が配布されています。しかし、まだ学校では効果的な活用法が確立されておらず、健康問題やネット犯罪に巻き込まれる危険性についても心配です。タブレットを活用した授業の望ましい在り方についてお話しいただきます。(主催：NPO法人神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)



- 日時：9月11日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：無料 ※7月25日(日)から千代田区民受付開始。区民以外の方は8月1日(日)から受付開始。

9/14 (火) 国際法がわかると世界がわかる —最新ニュースを読み解くために

講師：森 肇志(東京大学大学院法学政治学専攻教授)

「WHO(世界保健機関)」、「パリ協定」といった国際問題の多くは「国際法」と密接に関連していますが、国際法のことはよく知られていないために関連ニュースの理解が難しくなっているかも知れません。本講座では、そもそも国際法ってなに?その歴史は?というところから始め、いくつかの時事ニュースを国際法の観点から読み解いていきます。



- 日時：9月14日(火) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円

9/28 (火) 江戸歴史講座 第71回 芭蕉のこぼ遊び～しゃれを用いた句

講師：深沢 眞二(連歌俳諧研究者)

日本古典文学を読む上で、「掛け言葉」「秀句」「しゃれ」などと呼ばれる、同音異義語を利用して詩歌が多重の意味を含むようにする技法の理解は重要である。見過ごされがちだが、芭蕉もそれをよく用いていた。芭蕉発句から「水とりや氷の僧の沓の音」ほかを取り上げ、新たな読み解きを試みる。



- 日時：9月28日(火) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円(千代田区民 500円)

9/30 (木) 江戸歴史講座 第72回/EDO ART EXPO 関連講座 日本刀文化と江戸 —日本刀の魅力とは

講師：井本 悠紀(刀剣博物館 学芸員)

1,000年の歴史をもつ日本刀は、武器としてはもちろん御神体・贈答品・身分標識など、様々な役割が与えられ文化を築いてきた。江戸時代、刃文はデザイン化され、町人文化に根付いた刀装・刀装具は近代工芸の礎となる発展を見た。いま、我々を魅了する日本刀文化とは何か。その魅力を考えていきたい。



「太刀 銘 国行(号明石国行)」(刀剣博物館所蔵)

- 日時：9月30日(木) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円(千代田区民500円)



三代歌川豊国「七福神宝船」〈前期展示〉

◆ 日比谷図書文化館 ◆ 特別展 ◆ 紀伊国屋三谷家コレクション 浮世絵をうる・つくる・みる

浮世絵は、いまや日本を代表する芸術として世界中から愛好されています。現代でも様々な場所で目にする機会がありますが、意外にも江戸・明治期の人々がどのように楽しんでたのかは知られていないのではないのでしょうか。本展では、「うる」「つくる」「みる」をキーワードに、当時出版物として売られていた浮世絵が人々のささやかな娯楽品として、また暮らしの貴重な情報源として親しまれていたことを紹介しています。紀伊国屋三谷家コレクション(千代田区指定文化財)を通して、江戸・明治期の暮らしに華を添えた浮世絵の色鮮やかで闊達な世界をご堪能ください!



三代歌川豊国 「四代目中村歌右衛門の漁師鱈七 実は金輪五郎今国」 〈前期展示〉

開催中!

前後期で出品作を全点展示替え!

- ▶ 前期：8月15日(日)まで!
- ▶ 後期：8月18日(水)～9月19日(日)

【開室時間】 月～木・土：10時～19時、金：10時～20時、日・祝：10時～17時(入室は閉室の30分前まで)

【会場】 千代田区立日比谷図書文化館 1階特別展示室

【観覧料】 一般300円、大学・高校生200円、区内在住者・中学生以下の方・障害者手帳などをお持ちの方とその付き添いの方1名は無料(各種証明書の提示が必要)

From Chiyoda Public Library ■ 千代田区立図書館からのお知らせ

調べもの戦隊 レファレンジャー

本探しの助っ人「レファレンジャー」がやってきます! お子様の自由研究や工作、読書感想文用の本など、夏休みの宿題に役立つ本を、レファレンジャーと一緒に探します。会場でお気軽にお声かけください。(申込不要・無料)

.....

【千代田図書館 10階】

- 日時：7月31日(土)～8月31日(火) 各日午前9時～午後5時
- 休館日：8月22日(日)

.....

【四番町図書館 2階】

- 日時：8月26日(木)～8月29日(日) 各日午前10時～午後5時

